

学校法人多摩美術大学の平成22年度(2010年度)の事業報告をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

## 1.事業の概況

今年3月の東日本大震災は、甚大な被害を我が国にもたらしましたが、地震、津波のみならず、福島原子力発電所の事故による電力不足は東京電力管内の産業界や住民に大きな影響を与えています。

また、放射能汚染は、周辺の住民生活への影響に留まらず、大勢の留学生を抱える大学にとっては帰国した学生の再入国問題が残り状況は深刻です。

幸い本学の施設・建物等には地震による被害は無く、また、留学生の再入国問題もありませんでした。しかし、造形表現学部入学試験の2日目を中止としたり、被災学生への緊急奨学金の拡大対応や余震による停電や交通マヒに対する不安から、入学式や学事日程を2週間繰り下げるなど震災対応を進めてきました。

このような状況下で景気に対する先行き不透明感も一層高まっています。

わが国の少子化問題は年々深刻さを増し、ピーク時の平成4年度の18歳人口205万人と比べ、22年度では41%減となり、人数では前年に引き続き120万人となっています。今後6～7年は120万人台が続きますが、その後は110万人を下回り、確実に減少の途を辿ります。私学にとっては限られた時間のうちに「改革と財政基盤強化」を図らなければなりません。

私立大学には、学生募集を停止している大学が5校ある一方で、今年度も4年制大学の数が増え、595校から597校となっています。地方の私学や中小規模の大学を中心に、定員割れ私大が全体の38.1%となり、昨年の46.5%よりは改善されましたが、帰属収入で消費支出を賄えない法人「帰属収支差額赤字法人」は215法人で、昨年の39%から40.1%となり4割を超えました。

昨年、私学助成の一般補助と特別補助との配分割合が様変わりし、特別補助の配分比率が高い大学にとっては経営を左右しかねない問題となります。

こうした状況にあって、大学は国からの認証を受けた第三者機関による認証評価制度や私学法改正に基づく管理運営制度の強化、また財務ならびに教育情報公開制度による大学の質の向上と広く社会に向けた説明責任を果たす運営体制が求められています。

本学は以上のことを踏まえて時代を先取りした教育を進めるため、建学の理念に基づきさらなる改革への取組みを進めています。

### ◎大学改革の推進

本学は平成21年3月に認証評価機関である大学基準協会の適合認定を受けています。

今後も学生アンケートによる授業評価など、自らの質を保証するシステムの構築に取り組んでまいります。

次に、学生受入態勢の強化のため事務組織を見直し「入学センター」を設置しました。これにより入試広報と入学試験の関係が強化され、高校や予備校などからの照会にも機能的な対応が可能になりました。

国際的な美術家・デザイナー育成のための環境整備では、平成18年に始まったアメリカのアートセンター・カレッジオブデザインとのパシフィックリム・プロジェクト(海外学生交流)は5年目を迎え、ロサンゼルスでアメリカ・ステージが行われ、本学10名、アートセンター9名が参加し12月に最終発表会が開かれました。

また、「異文化相互批評が可能にする高度人材育成」通称CO-CORE(ココア)プロジェクトが、10月に北京の清華大学美術学院において4カ国から5大学が参加した国際講評会が実施されました。

さらに、公的研究費の管理監査体制を進めるとともに、科学研究費などの競争的資金獲得に努めました。その中で個人研究費の増額制度を導入し、意欲的な研究者の一層の支援に取り組みました。

主なものとしては、科学技術振興機構の資金による、東京大学とも協力して進めている「CREST」のプロジェクトは5年目を迎え、イギリスでの発表をはじめとして、日本各地でもシンポジウムや研究成果などの発表を行いました。

## ◎管理運営面の改革推進

- 大学運営 学生募集業務の見直しを行い、教務部の入試業務と企画広報部の入試広報業務の統合・強化を図るため、入学センターを設置しました。
- 労務管理 教員の勤務時間について、専門業務型裁量労働制を採用し、協定を結びました。  
職員の健康管理のため、残業時間の削減と振替休日の取得の確認をすすめ、前年度比で残業時間を15.6%削減しました。  
高齢者雇用安定法の改正にともない、定年退職者を再雇用する嘱託規程を整備しました。
- 施設管理 八王子キャンパスの省エネ対策に取り組み、トイレの自動消灯とLEDを設置しました。

## ◎施設整備

### ●校舎等施設関係

- ①八王子キャンパス旧図書館棟解体工事を実施しました。
- ②同キャンパス共通教育棟耐震・EV設置工事で計画変更により一時中断しましたが、23年12月竣工予定で進行中です。
- ③上野毛キャンパス1号館防水工事、2号館修繕工事、講堂修繕工事を実施しました。  
ならびに図書館1F空調設備を更新しました。
- ④多摩センターの美術館の屋上と壁面の防水工事を実施しました。
- ⑤奈良飛鳥寮の土地の一部(元々道路地目分)を奈良市に道路敷地として寄付しました。

### ●機器備品等設備関係

- ①美術学部プロダクトデザインにコンピュータで立体を読み取って成形する3Dスキャナー、3Dプリンターを導入しました。
- ②グラフィックデザイン学科コンピュータールームB教室のパソコン30台を入れ替えました。
- ③造形表現学部デザイン学科1号館コンピュータールームのパソコン58台を入れ替えました。  
同映像演劇学科の3号館デジタル映像用コンピュータールームの設備を導入しました。

## ◎当期に行った主な事業

### ●教職課程の充実

芸術学科での教員免許状取得を新設しました。

### ●大学院の充実化の取り組み

博士号取得の条件として、博士論文に創作研究の作品を加えました。

昨年に引き続き、全大学院生を対象とした学修奨励制度により成果発表等を支援しています。

### ●多摩美術大学奨学金等の充実

国の私費外国人留学生授業料減免の補助金が廃止されましたが、留学生が従来通り減免の継続を受けられるように規程を改正しました。

## ◎事務部門における主な事業

各事務部門における主な報告は以下の通りです。

- 企画広報 アキハタマヒ21をオープン、1万6千人の来場者がありました。
- 教務部・・・ 評価基準の明確化、授業評価の改善と実施、芸術学科の教職課程認定、国際化の推進。
- 入学センター・・・ 募集業務の改革、ブランディング広告や広報資料の見直しなど入試広報業務の改革。
- 研究支援部・・・ ガイドラインを受けて競争的資金管理と体制の整備に取り組んだ結果、科研費応募者が増加。  
5年目となる「CREST」のシンポジウム、成果発表などが国内外で行われました。
- 学生部・・・ 学生相談などの生活支援強化、独自の奨学金充実、課外活動支援を強化しました。  
進路指導体制の強化、相談業務の強化の結果、就職内定率と就職者数が増加しました。
- 造形表現学部事務 学生の修学・生活サポート、指定校推薦入試の実施、社会人学生授業料減免の継続実施。
- 図書館・・・ 学生へのサービス充実と学内利用者の増加を目指し、ガイダンスを実施、webによる最新情報提供、資料展示、上映会の実施、映像資料の充実、両図書館の連携強化。
- 美術館・・・ 年間8本の企画展、博物館実習、共同研究、生涯学習への参画。
- メディアセンター・・・ 産学共同研究推進。スパムメール対策強化。
- 芸術人類学研究所 友の会会報誌発行、シンポジウム開催などの成果発信。
- 生涯学習センター 10周年記念の特別講演会・連続講座など年間135講座の実施。受講者数が倍増。

## 平成22年度予算の執行状況

当期の予算執行状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はHP→多摩美術大学について→会計・事業報告をご参照ください)

### 2. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。

なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,660,200	7,721,026	△60,826
手数料収入	232,900	207,967	24,933
寄付金収入	250	420	△170
補助金収入	545,600	670,680	△125,080
資産運用収入	144,500	124,262	20,238
資産売却収入	900,000	1,000,284	△100,284
事業収入	66,750	105,706	△38,956
雑収入	200,200	246,944	△46,744
前受金収入	2,940,500	3,052,380	△111,880
その他の収入	98,745	99,101	△356
資金収入調整勘定	△3,447,760	△3,519,506	71,746
当年度資金収入合計(A)	9,341,885	9,709,264	△367,379
前年度繰越支払資金	8,582,948	8,582,948	0
収入の部合計	17,924,833	18,292,212	△367,379

人事院勧告に基づくスライド制学費により授業料を美術学部▲17千円、造形表現学部▲12千円(▲1.35%)引下げましたが予算額を上回りました。

私立大学経常費補助金651,177千円、うち特別補助212,561千円(大学院教育研究高度化支援メニュー76,064千円、ICT活用教育研究支援59,292千円他)、「教員免許状更新講習開設事業費」1,449千円および「私立大学等研究設備整備費等補助金」15,858千円等の交付により予算額を上回りました。

預金金利は下降しましたが、運用資金量の増加や国債を中心とする長期債券での運用により予算額を上回りました。

国債、政府保証債等の長期有価証券の満期による償還額です。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,093,700	3,907,281	186,419
教育研究経費支出	2,110,460	1,808,008	302,452
管理経費支出	430,500	377,086	53,414
借入金等利息支出	61,900	61,653	247
借入金等返済支出	495,390	495,390	0
施設関係支出	1,016,000	265,758	750,242
設備関係支出	425,300	250,010	175,290
資産運用支出	2,900,200	2,498,380	401,820
その他の支出	270,052	269,957	95
予備費	268,700	—	268,700
資金支出調整勘定	△277,888	△271,084	△6,804
当年度資金支出合計(B)	11,794,314	9,662,439	2,131,875
次年度繰越支払資金	6,130,520	8,629,773	△2,499,253
支出の部合計	17,924,834	18,292,212	△367,378

事務職員の業務改善取り組み効果により、超過勤務手当が減少しました。

美術館外壁補修や同ダストシューター撤去や(旧)図書館の取壊し費等の営繕費や大学院生への「制作発表活動等奨励金」、私費外国人留学生への「学費減免奨学金」等の継続実施およびPCソフトや周辺消耗品の増加を見込みましたが予

八王子キャンパス、資料センター新築工事や共通教育棟耐震補強工事の計画変更で工程が遅れ予算額を下回りました。

多摩美術大学奨学金の原資となる受取利息収入の増額を計るため、国債や政府保証債、財投機関債を中心とする長期債券を5億円購入しました。施設整備資金である第2号基本金引当資産とし

当年度資金収支差額(A)-(B)	△2,452,429	46,825	△2,499,254
------------------	------------	--------	------------

上記により、次年度繰越支払資金が増加しました。

### 3. 消費収支計算

消費収支計算について、その主な内容を報告します。

【消費収支計算総括表】

(消費収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,660,200	7,721,026	△60,826
手数料	232,900	207,967	24,933
寄付金	250	1,949	△1,699
補助金	545,600	670,680	△125,080
資産運用収入	144,500	124,262	20,238
資産売却差額	0	1,604	△1,604
事業収入	66,750	105,706	△38,956
雑収入	200,200	246,944	△46,744
帰属収入	8,850,400	9,080,138	△229,738
基本金組入額合計	△2,532,100	△1,608,997	△923,103
消費収入の部合計	6,318,300	7,471,141	△1,152,841

現金420千円その他、現物寄付金として科学研究費補助金から購入された書籍他1,529千円相当額の寄贈がありました。

国債や政府保証債、財投機関債などを額面以下の価格で購入し運用していた債券が満期償還され購入額との差額がありました。

公開講座収入、教員免許状更新講習収入、受託研究収入など予算を上回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	4,100,200	3,885,679	214,521
教育研究経費	3,698,460	3,356,881	341,579
(うち減価償却額)	1,588,000	1,548,873	39,127
管理経費	551,000	492,601	58,399
(うち減価償却額)	120,500	115,515	4,985
借入金等利息	61,900	61,653	247
資産処分差額	163,500	163,298	202
徴収不能額	0	0	0
予備費	335,200	—	335,200
消費支出の部合計	8,910,260	7,960,112	950,148

キャンパス整備の充実による建物や機器備品などの資産の増加とともに減価償却額が増額しています。

八王子キャンパス共通教育棟耐震補強工事計画変更に係る資材等の一時費用が発生しました。

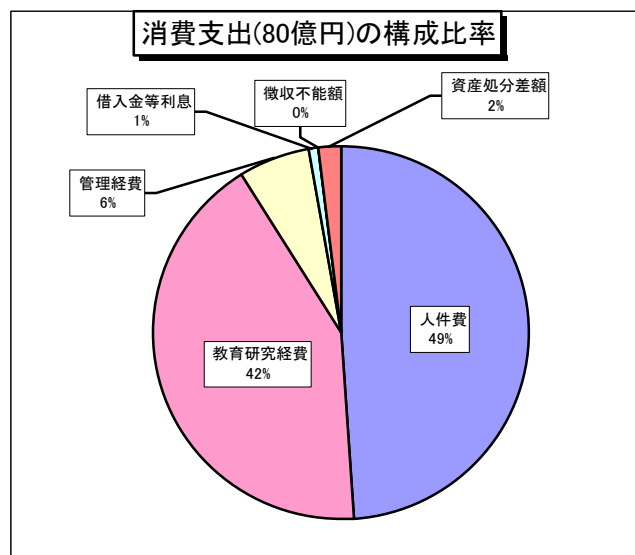
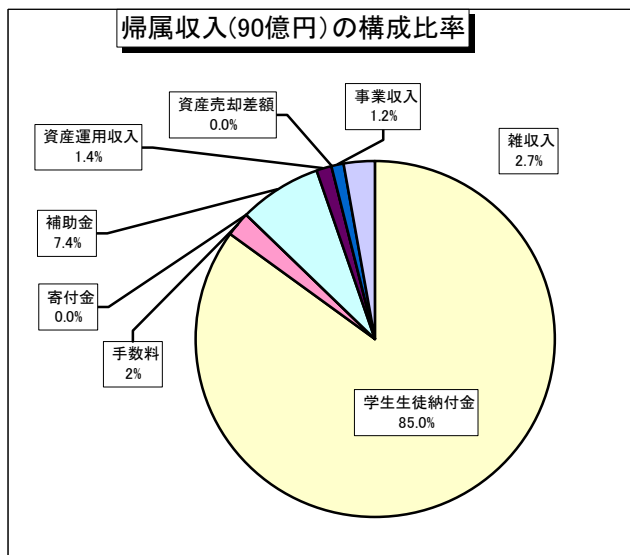
八王子キャンパス(旧)図書館取壊しに係る処分差額が発生しました。

上記の結果、帰属収入は230百万円予算を上回り、帰属収支差額比率は12.3%になりました。これは次年度以降も継続される施設整備計画の資金として充当されます。当年度は消費支出超過489百万円となり翌年度繰越消費支出超過額は7,140百万円になりました。この消費支出超過額は、将来計画にかかる基本金組入れや自己資金による施設設備充実の結果生じた多額の基本金組入額によるもので、中長期的には消費支出超過額を解消し今後も消費収支の均衡が図られる運営をめざします。

帰属収支差額(注1)	△59,860	1,120,026	△1,179,886
帰属収支差額比率(注2)	△0.7%	12.3%	—
当年度消費支出超過額	2,591,960	488,971	—
前年度消費支出超過額	6,651,106	6,651,106	—
翌年度繰越消費支出超過額	9,243,066	7,140,077	—

注1 帰属収支差額＝帰属収入－消費支出

注2 帰属収支差額比率＝帰属収支差額÷帰属収入×100



#### 4. 貸借対照表

貸借対照表について、前年度からの増減を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目	H22年度末	H21年度末	増減
固定資産	54,218,539	54,029,348	189,191
有形固定資産	38,486,236	39,796,625	△1,310,389
その他の固定資産	15,732,303	14,232,723	1,499,580
流動資産	8,941,522	8,702,192	239,330
合計	63,160,061	62,731,540	428,521

建物＝美術学部 共通教育センター耐震補強工事(部分)  
彫刻学科塑造棟集塵機設置工事他  
(旧)図書館を解体撤去し跡地整備しました。  
構築物＝美術学部 1号井および2号井改修工事他  
教育研究用機器備品  
美術学部＝3Dスキャナーシステム一式、図書自動貸出機2台一式、  
アマノ集塵機WRT-7208型、PCMacPro・2.80GHz18台他  
造形表現学部＝Imac21.5CTO41台、Macbook

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目	H22年度末	H21年度末	増減
固定負債	3,433,941	3,950,933	△516,992
流動負債	4,011,621	4,186,134	△174,513
計	7,445,562	8,137,067	△691,505
第1号基本金	54,533,497	54,424,670	108,827
第2号基本金	7,500,000	6,000,000	1,500,000
第3号基本金	341,080	340,910	170
第4号基本金	480,000	480,000	0
計	62,854,577	61,245,580	1,608,997
消費収支差額	△7,140,078	△6,651,107	△488,971
負債、基本金、消費収支差額の部合計	63,160,061	62,731,540	428,521

資産運用の長期有価証券は5億円減少し43.9億円(H23/3月末の有価証券取得価額に対する評価額はプラス124百万円)、多摩美術大学施設整備資金引当資産(第2号基本金引当預金)が15億円増加し75億円。現有固定資産更新のための資金「減価償却引当預金」が5億円増加し35億円。

現金預金は46百万円増加し8,630百万円、退職金財団交付金等の未収入金は176百万円増加し177百万円、前払金は16百万円増加し44百万円。

長期借入金残高は返済により減少し1,306百万円  
退職給与引当金は2,128百万円。

(参考)

正味資産額	55,714,499	54,594,473	1,120,026
-------	------------	------------	-----------

※正味資産＝資産-負債

減価償却額の累計額	15,389,296	14,496,592	892,704
基本金未組入額	319,652	376,442	△56,790

第1号基本金＝平成22年度自己資金による固定資産の新規取得や過年度の固定資産取得にかかる借入金返済額相当を基本金へ組入れました。

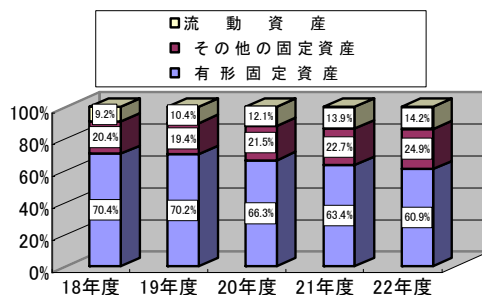
第2号基本金＝施設整備計画に係る組入れ、平成23年度末までの組入計画額90億円。

貸借対照表についてH20年度～H18年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目	H20年度末	H19年度末	H18年度末
固定資産	54,439,345	54,205,438	55,130,210
有形固定資産	41,106,425	42,471,617	42,752,306
その他の固定資産	13,332,920	11,733,821	12,377,904
流動資産	7,515,226	6,317,745	5,585,388
合計	61,954,571	60,523,183	60,715,598

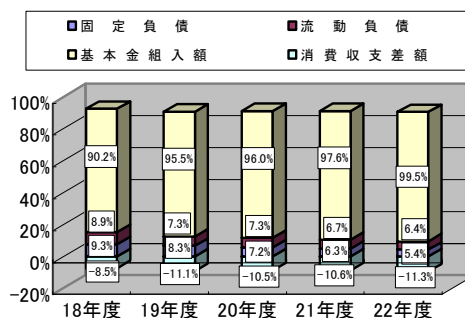
資産構成比率



(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目	H20年度末	H19年度末	H18年度末
固定負債	4,440,486	5,052,875	5,646,020
流動負債	4,533,501	4,399,881	5,423,815
計	8,973,987	9,452,756	11,069,835
第1号基本金	54,140,519	53,987,353	52,563,441
第2号基本金	4,500,000	3,000,000	1,500,000
第3号基本金	339,910	338,910	283,910
第4号基本金	480,000	448,000	448,000
計	59,460,429	57,774,263	54,795,351
消費収支差額	△6,479,845	△6,703,836	△5,149,588
負債、基本金、消費収支差額の部合計	61,954,571	60,523,183	60,715,598

負債、基本金、収支差額構成比率



(参考)

正味資産額	52,980,584	51,070,427	49,645,763
-------	------------	------------	------------

※正味資産＝資産-負債

減価償却額の累計額	13,177,715	11,957,342	11,086,863
基本金未組入額	482,492	490,115	1,605,677

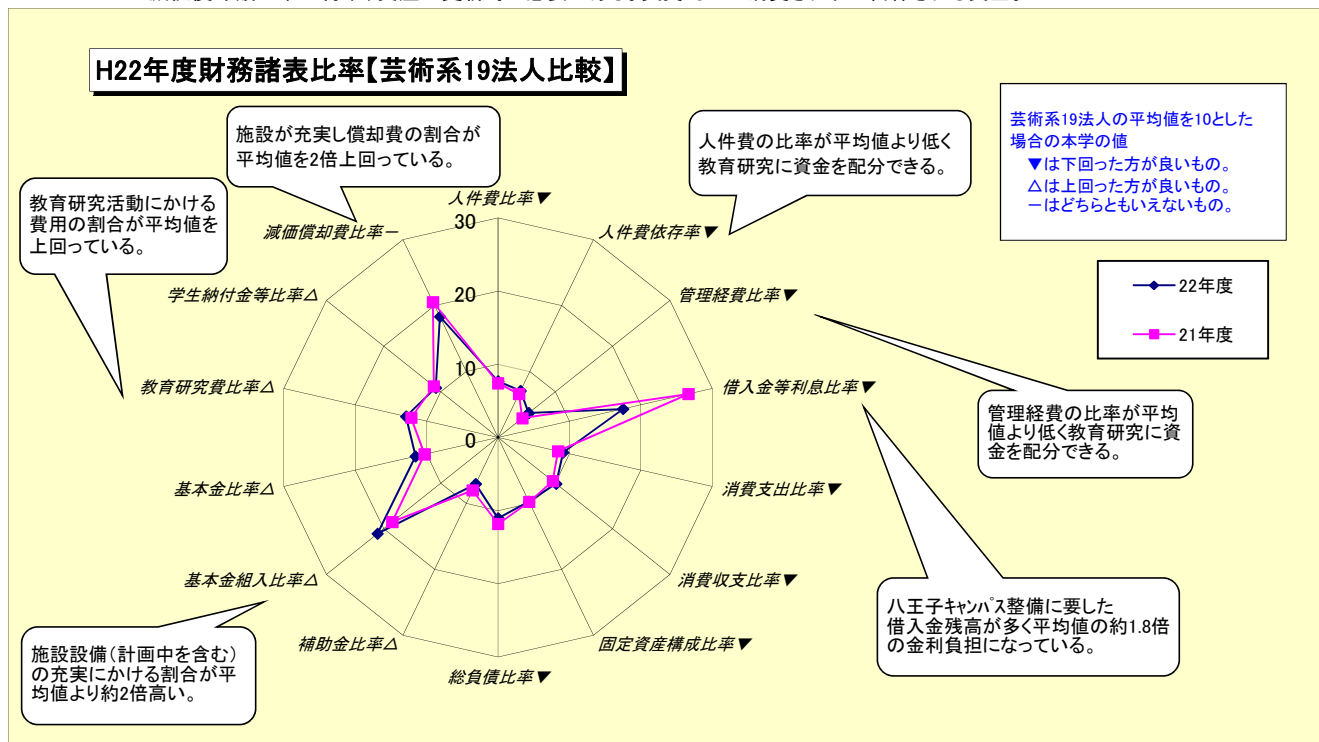
## 5. 財務比率<平成16年度から平成22年度>

※芸術系平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成21年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▼	38.9%	40.5%	40.4%	39.1%	40.7%	40.3%	42.8%	55.7%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	45.2%	47.3%	46.9%	45.9%	48.5%	46.9%	50.3%	71.3%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▼	4.6%	5.2%	4.4%	5.1%	4.5%	4.4%	5.4%	10.1%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金利息}}{\text{帰属収入}}$	▼	1.7%	1.5%	1.3%	1.2%	1.0%	0.8%	0.7%	0.4%
消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	▼	76.2%	82.3%	75.4%	84.5%	79.8%	82.1%	87.7%	96.2%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▼	111.7%	115.8%	143.0%	125.0%	97.1%	102.4%	106.6%	105.0%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	83.5%	87.1%	90.8%	89.6%	87.9%	86.1%	85.8%	88.4%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	19.6%	18.5%	18.2%	15.6%	14.5%	13.0%	11.8%	10.7%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	△	5.4%	6.6%	6.1%	7.3%	7.6%	7.3%	7.4%	10.5%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	△	30.0%	29.0%	47.3%	32.4%	17.8%	19.8%	17.7%	8.4%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	96.8%	97.9%	97.0%	99.1%	99.1%	100.2%	113.6%	98.1%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	29.2%	34.7%	29.1%	36.5%	33.6%	36.4%	37.0%	28.7%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{帰属収入}}$	△	86.2%	85.6%	86.0%	85.0%	84.0%	86.0%	85.0%	78.1%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	19.3%	25.2%	20.5%	21.2%	22.8%	22.8%	20.9%	11.4%

### 【比率分析の見方】

人件費比率＝帰属収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。  
 人件費依存率＝学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。  
 借入金等利息比率＝低い方が望ましい。本学は八王子キャンパス整備の際の借入金残高が多く平均値を上回っている。  
 管理経費比率＝帰属収入に対する管理費用の割合で低い方が望ましい。  
 消費支出比率＝人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。  
 消費収支比率＝消費収入に対する消費支出の割合で低い方が望ましく比率が100%を超えると支出超過(赤字)となる。  
 固定資産構成比率＝総資産に占める固定資産の割合で低い方が望ましい、比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。  
 総負債比率＝低い方が望ましい。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。  
 補助金比率＝私立大学等経常費補助金の配分方法見直し、GPなど競争的補助金の積極的な取り組みにより増加。  
 基本金組入比率＝高い方が望ましいとされる。長期に亘る八王子キャンパス整備により組入れ比率が高水準。  
 基本金比率＝基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が望ましい。  
 教育研究費経費比率＝帰属収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が望ましい。  
 学生納付金等比率＝帰属収入の中で最もウエートが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。  
 減価償却額比率＝将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。



### 【まとめ】

平成22年度末における本学の財政状況は、多額の資金を要した八王子キャンパス整備実施の際に日本私立学校振興・共済事業団を中心に資金を借り入れたことから総負債比率が平均値より若干高くはありますが、負債を返済するための資金ストックおよび毎年度の帰属収支差額に不足なく、今後も安定的な運営資金が十分確保されております。

## 6. 法人の概要

設置する学部学科の名称および入学定員と学生数

### 【大学・学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数
八王子	美術学部	絵画学科	日本画	190	760	(159)
			油画			843
			版画			(537)
		彫刻学科		30	120	142
		工芸学科	陶	60	240	267
			ガラス			
			金属			
		グラフィックデザイン学科		180	720	770
		生産デザイン学科	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	100	385	444
		環境デザイン学科		80	320	354
情報デザイン学科	情報芸術 情報デザイン	120	480	577		
芸術学科		55	220	251		
小計		815	3,245	3,648		
上野毛	造形表現学部	造形学科		40	160	169
		デザイン学科		100	400	382
		映像演劇学科		60	240	281
		小計		200	800	832
合計				1,015	4,045	4,480

カッコ内は専攻の内数

### 【大学院】

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数
八王子 及び 上野毛	美術研究科 (博士前期課程)	絵画専攻	日本画	60	120	118
			油画			
			版画			
		彫刻専攻		12	24	24
		工芸専攻		10	20	23
	デザイン専攻	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン コミュニケーションデザイン	45	90	106	
芸術学専攻		7	14	14		
小計		134	268	285		
(博士後期課程)	美術専攻		7	21	24	
合計				141	289	309

総計				1,156	4,334	4,789
----	--	--	--	-------	-------	-------

平成22年5月1日現在

## 所在地

- 法人本部・造形表現学部・大学院  
〒158-8558 東京都世田谷区上野毛3-15-34
- 美術学部・大学院  
〒192-0394 東京都八王子市鍵水2-1723
- 美術館  
〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1

## 役員・評議員・教職員の概要

### 【役員】

理事長	藤谷 宣人
理事(学長)	清田 義英
理事	大津 英敏
理事	東海林 隆
理事	高橋 史郎
理事	竹田 光幸
理事	中島 祥文
理事	本江 邦夫
監事	飛鳥田 一朗
監事	森 三千郎

### 【評議員】

評議員	荒川 直
評議員	五十嵐 威暢
評議員	大津 英敏
評議員	清田 義英
評議員	高橋 史郎
評議員	田口 敦子
評議員	竹田 光幸
評議員	鶴見 雅夫
評議員	中島 祥文
評議員	中野 嘉之
評議員	橋本 京子
評議員	秦 剛平
評議員	平出 隆
評議員	福島 勝則
評議員	藤谷 宣人
評議員	室越 健美
評議員	本江 邦夫
評議員	森下 清子
評議員	山中 玄三郎

### 【教職員の概要(専任)】

大学教員	184名
職員	163名

平成22年5月1日現在